



## 超高齢社会に対応する積極的な口腔保健行動啓発戦略

健康開発学科 口腔保健科学専攻

久保田 チエコ 助教

【研究分野】 高齢者歯科保健、口腔衛生保健向上・認知症オーラルケア  
 【キーワード】 高齢者、口腔セルフケア・定期歯科受診、口腔体操、認知症ユニバーサルデザイン  
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=279kubo>



### 研究概要

わが国は世界からみても超高齢社会です。高齢者は口腔内の環境が悪くなると、栄養状態が悪化、身体能力低下と悪循環に陥ります。そのため、高齢者自身が定期的に歯科受診を行う、毎日の口腔セルフケアを行うことは欠かせません。しかし、高齢化が加速するとフレイルや認知症高齢者が増加し、セルフケアができないことが課題となっています。

このような状況の中で私が手掛けている研究は、地域高齢者を対象に、定期的に歯科受診を行う高齢者の特徴を明らかにすること、定期的な歯科受診を促すシステムを開発する、フレイルや認知症でも口腔ケアができる用具の開発等の研究を行っています。

### 研究紹介

1. 自発的な口腔予防行動の啓発戦略
  - 1) 高齢者の定期歯科受診に関わる要因を明らかにする（研究論文発表済）。
  - 2) 1) を明らかにした上で、定期歯科受診向上戦略を企画する。
2. 地域高齢者に対する口腔セルフケアの調査
  - 1) 地域高齢者の口腔セルフケアの調査を行う（研究論文執筆中）。
  - 2) 口腔セルフケアが困難なフレイル高齢者に対する口腔ケア方法・用具の開発。
3. 認知症対応口腔清掃用具のユニバーサルデザインの開発
  - 1) 認知症高齢者が認識しやすい口腔清掃用具のデザイン開発
  - 2) 口腔ケアを拒否する認知症高齢者が、安心して口腔ケアを受け入れる方法の検討

### 講座テーマ紹介

・地域高齢者、フレイル高齢者、認知症高齢者に対する口腔ケア・摂食嚥下を助けるケアの方法について講座を開催します。

### アピールポイントなど

・論文

① Association between chewing-stimulated salivary flow under the effects of atropine and mixing ability assessed using a color-changeable chewing gum. Journal of Prosthodontic Research 2017.

② Gender differences in the relationship between personality, cognitive function and regular dental visits in Japanese community-dwelling older adults. International Journal of dental hygiene 2021.

②の論文は、埼玉県内の地域高齢者を対象に定期歯科受診の要因を明らかにしました。

・コロナ禍以前は、地域で開催される口腔ケア講座を開催していました。また、歯科衛生士学生だけでなく看護学生、専門看護師への口腔ケアの方法や研究方法について講義・演習を実施していました。さらに多職種での研究を行い、英文で発表、今後も発展させていきます。